

第62話 アメリカのカブトガニ事情

今回は久しぶりにカブトガニの話題です。アメリカのカブトガニの話題については、第46話でもお話ししました。今回は、カブトガニの最近の話題の他、その経済効果にも触れてみたいと思います。

カブトガニの数が減ってきているため対策が必要とのことでいろいろな動きがあったのは1990年代の後半のことです。2001年には、デラウェア湾の海域にカブトガニの保護区が設けられ、その他の州でも種々の規制が行われています。カブトガニが影響を及ぼす産業として、野生観察やバードウォッチングなどの観光業、ウナギや貝の養殖業、そしてLAL産業が挙げられています。少し古いデータになりますが、2000年4月にIndustrial Economics社がU. S. Fish and Wildlife Serviceの経済部門のために作成した報告書¹⁾によると、地域への経済的貢献は、観光業（メイ岬、ニュージャージー州）で7百万ドルから1千万ドル、貝の養殖業で1千万ドルから1千5百万ドル、ウナギの養殖業で2百万ドル、LAL産業で7千3百万ドルから9千6百万ドルと試算されています。

観光業はメイ岬のみの試算で、バードウォッチングやカブトガニ産卵観察などに関連した産業です。その他の地域を入れると、もう少し大きい経済

効果になるかもしれません。バードウォッチングの対象は、コオバシギ (red knot)、ミユビシギ (sanderling)、キョウジョシギ (ruddy turnstone) など、海岸にすむ渡り鳥です。これらの鳥は、冬の間過ごした南アメリカから繁殖地の北極圏へ移動する際、デラウェア湾に立ち寄りカブトガニの卵を食べて栄養をつけていくというのです。カブトガニの卵はこれらの渡り鳥に必要であり、産卵に訪れるカブトガニの数が減るに連れて渡り鳥の数が減少しているという理由で、カブトガニの規制が始まったわけです。

カブトガニの捕獲規制は、主に養殖用の餌を目的に捕られる場合を対象としています。LAL産業用のカブトガニについては、捕獲区域が定められていたり報告義務があったりしますが、その数に特に制限はありません。LAL産業では採血後に捕獲した場所へカブトガニを戻すことになっており、その90%程度が生き残ると言われています。また、観光業とLAL産業はカブトガニなしでは続けていけないのに対し、餌は必ずしもカブトガニでなくてもよいということもあって、このような規制と決められたのかもしれない。

さて、最近のカブトガニの数はどうなっているのでしょうか。2005年6月10日のワシントンポスト紙には、デラウェア湾近郊に1千万匹程度のカブトガニがいるという意見とバージニア工科大学の調査で新しく成長したメスのカブトガニが2001年から2003年の間に86%にまで減ったという記事が載っていました。また、2005年11月18日にAtlantic State Marine Fisheries Commission (www.asmf.org) が発行したMemorandumにHorseshoe Crab Technical Committeeの報告では、デラウェア湾の調査で産卵に来るカブトガニの数は安定しているか少し減っているが、未熟なカブトガニの数は

1998年以降最近2年間で最も多くなっているとのことです。このことは、将来成熟したカブトガニの数が増える可能性を示唆していて、良い傾向といえます。

前出のワシントンポスト紙によると、コオバシギの数は20年前には10万羽いたのに、2004年には13,315羽だったとのことです。鳥をずっと観察してきた人にとって、この問題は非常に大きいのだと思います。ただ、自然界の出来事の原因を単一の事柄に求めることには無理があります。もちろん、渡り鳥の数の減少の原因がカブトガニの減少だけであると考えている人はいないとは思いますが、環境汚染や環境破壊などの他の原因も調査する必要があると思います。筆者は、こちらの方面について何も調べていないので何とも言えませんが。

いずれにしても、捕獲区域の制限や報告の義務などが生じたとはいえ、LAL産業の重要性は認めた上で、アメリカ東海岸の規制は進んでいるようです。カブトガニを殺してしまう餌用のカブトガニ捕獲を制限していくという流れです。これは、LALの原料を今後長年にわたって確保していく上で、どちらかというとも良い方向のように思えます。強力な次世代のエンドトキシン測定法が見えていない現在、なんとかカブトガニを保護しながら、うまく献血活動を続け、より良いLAL試薬を供給していきたいものです。

【参考文献】

- 1) Michelle M. Manion et al. : "Economic Assessment of the Atlantic Coast Horseshoe Crab Fishery" (Prepared for Division of Economics, U.S. Fish and Wildlife Service, prepared by Industrial Economics, Inc.), April 7 (2000).

次回は、第63話「プラスチック製品とエンドトキシン試験」の予定です。



エンドトキシンセミナー2006開催！ 詳細は p.25 をご参照下さい。